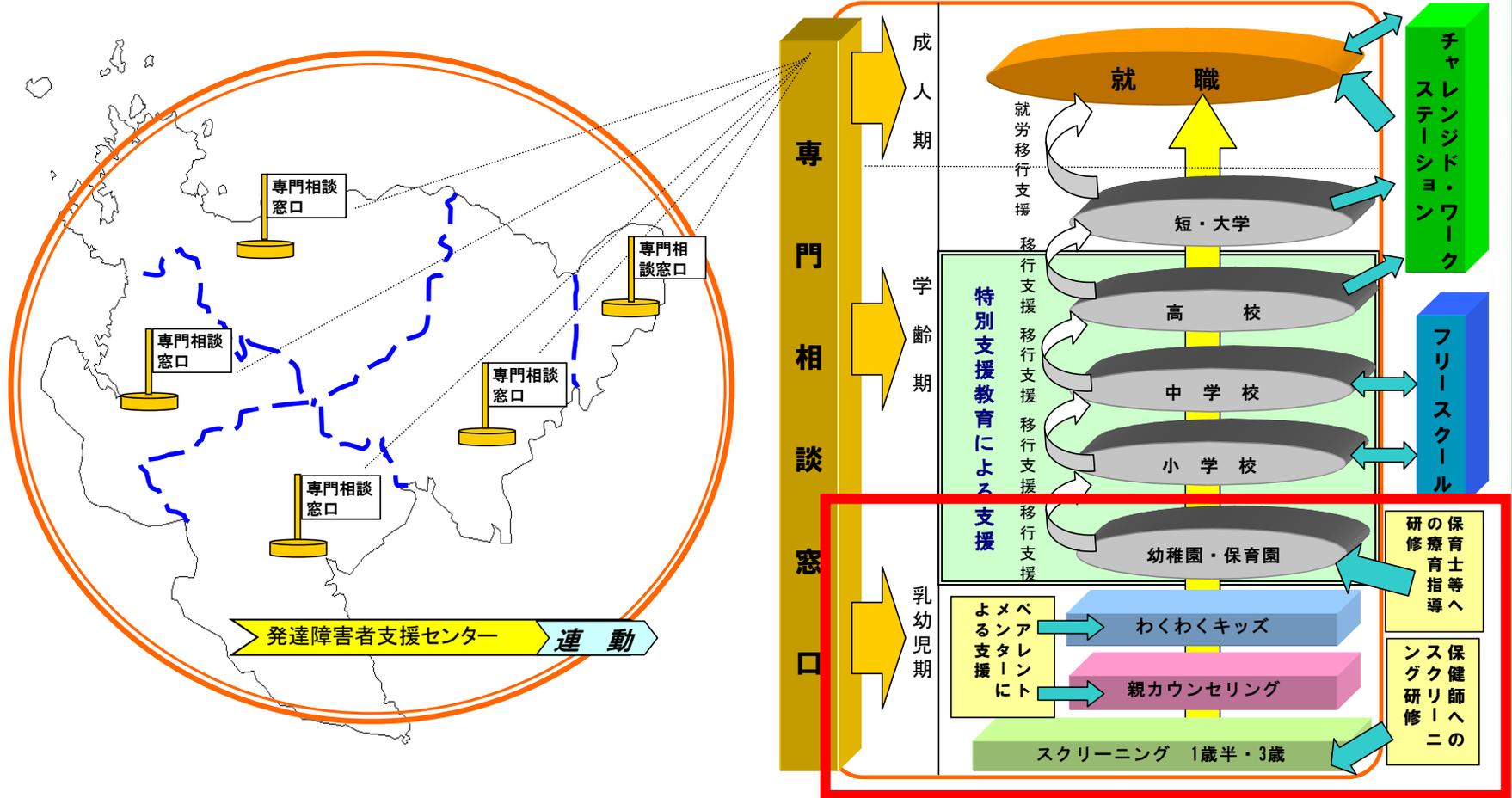




発達障害者支援に関する 佐賀県の取組み



発達障害者支援に関する佐賀県の取組概要



県内5保健福祉“圏域ごとに”発達障害者の支援体制を整備

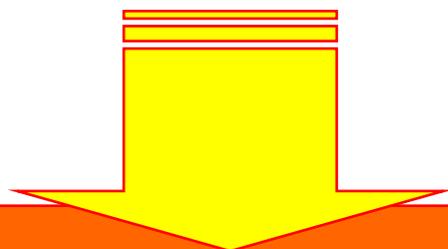
個人のライフステージに応じた、“一貫した”支援

県内どこに住んでいても、生涯にわたる“きめ細やかな”“途切れのない”支援体制を実現

発達障害者支援開発事業

ア. 自閉症等早期発見・早期療育支援事業

イ. 発達障害児家庭支援手法開発事業



1. 発達障害児の早期発見と、児と保護者の支援
2. 児及び保護者の住む地域のバックアップ体制の構築

1. 発達障害児の早期発見と、児と保護者の支援

- ① 自閉症等スクリーニング
(自閉症等スクリーニング研修会)
- ② 親カウンセリング
- ③ 療育指導教室

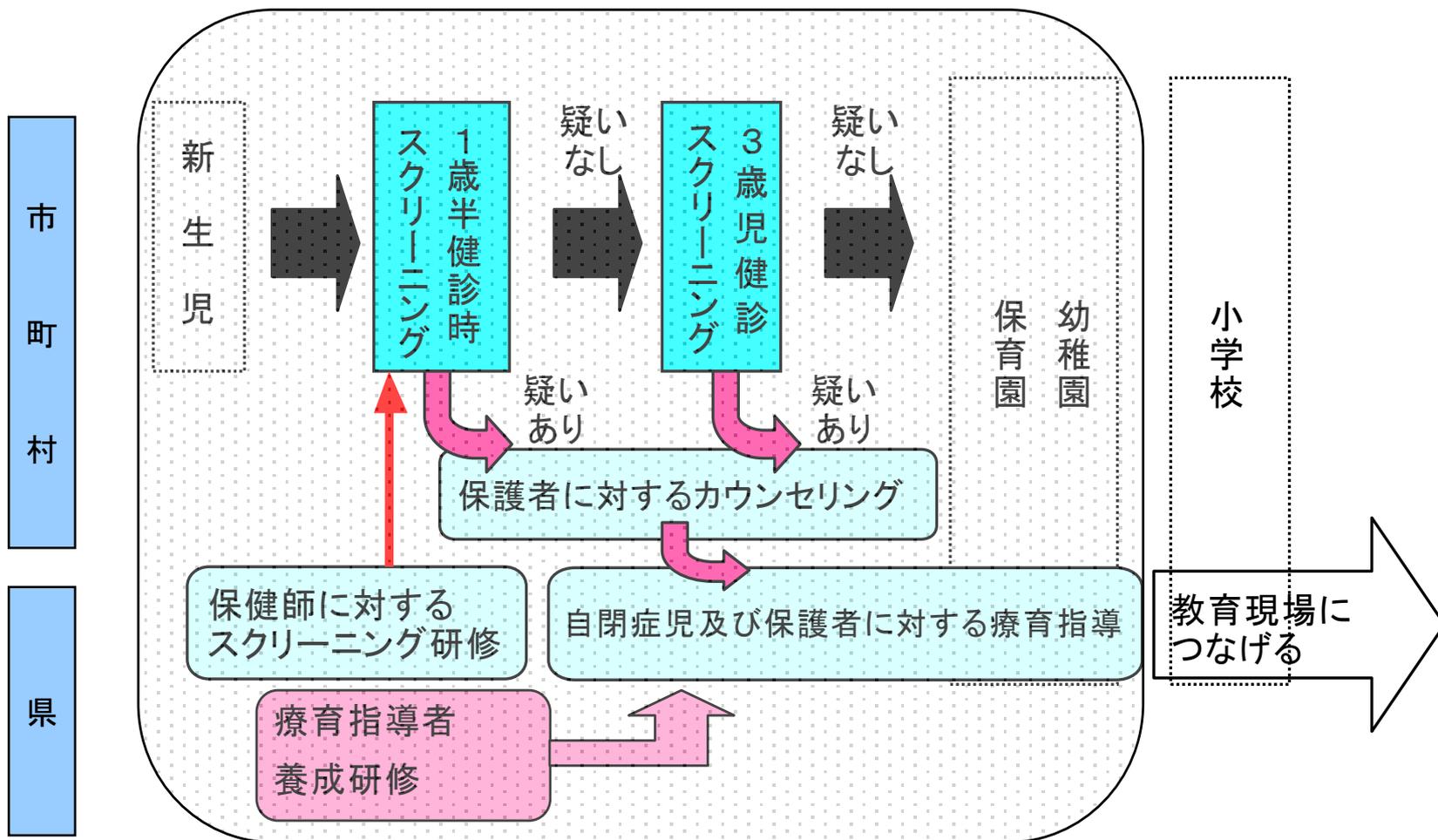
【目的】

- 自閉症等を早期に発見し、早期療育を実施することにより、問題行動等を回避、軽減し、よりよい社会生活への適応能力を向上するための支援手法を開発する。

【事業内容】

- ・市町が実施する1歳半児、3歳児健診においてスクリーニングに使用できる佐賀県独自の自閉症等用の二次問診票を開発
- ・市町において問診票を使ったより精度の高い早期発見を行い、自閉症等の可能性があり、支援の必要があると判断される場合は、親力ウンセリング、さらに療育指導を実施する。

【事業概要】



1-①. 自閉症等スクリーニング

佐賀県でのスクリーニングの取り組み

- 平成15～16年度

二次問診票の開発のため、医療・保健・福祉・教育関係者による「自閉症・発達障害スクリーニング検討会」を設置

※実用性を検証するため、佐賀市で試行的に使用

- 1歳半健診での問診項目(例)
- 回答は、「はい・いいえ」で答える

1. 睡眠・食事の状態

睡眠のリズムができていますか？

偏食や食べ方で困っていることはありますか？

2. 泣くときの様子

親からみて、泣くときの予想ができますか？

泣き方で気になることがありますか？

3. 抱いたときの様子

あやす時、視線が合いますか？

しがみつき方が上手ですか？

手を開いて抱っこされようとしますか？

H16年度

スクリーニングの実施状況



スクリーニングの実施状況

H17年度



スクリーニングの実施状況

H18年度



H19年度

スクリーニングの実施状況



スクリーニングの実施状況

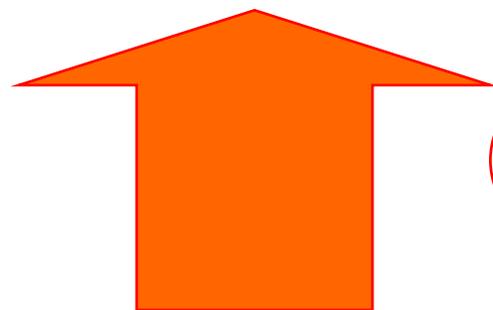
H20・21年度



スクリーニングの役割

- 親の気づきのサポート
- 本人にとっての混乱を減らすことの第一歩
- 保育士・教師の負担軽減
- 良い療育システムの入口 等

スクリーニングに従事する市町保健師等



スクリーニングの質
を担保

- ・自閉症等スクリーニング研修会の開催
H19～H21年度までに378人の保健師等が受講

自閉症等スクリーニング研修会の効果検証

Q. 研修は必要だと思いますか？(回答率98.7%)



- 必ず必要
- あるほうが望ましい
- なくてもよい

必ず必要・あるほうが望ましい 97.3%
 なくてもよい 2.7%

Q. スクリーニングのやり方についての理解は深まりましたか？(回答率98.7%)



- 深まった
- やや深まった
- 変わらない

深まった・やや深まった 97.3%
 変わらない 2.7%

スクリーニング研修会を受講した保健師の声

～研修の必要性に関するコメント～

- 新規、異動の職員がいるため実施にはより正確な判断能力を要するため、研修における基礎・応用知識の習得は必要。
- 問診は特性を聞き出すきっかけでしかないため、その特性を知る事はもちろんのこと、問診の聞き出すようとしていることを正確に把握していないと単なるアンケートになる。
- 年齢的な特徴と判断するか、ASDの概念を知った上でその視点を持って判断するか、違いが出てくると思う。
- 研修を繰り返し受けることで、力がついて自信につながるから。

- 二次問診票に係る佐賀県－高知県の共同研究

現在、高知県において、佐賀県の二次問診票を活用し、高知県での実践なども踏まえた、自閉症スペクトラム早期発見のための冊子「クリニカルチェックポイント」と、視覚的教材としてDVDを作成中

今後、佐賀県でも乳幼児健診などを担当する小児科医や保健師などへの研修用として使用していく予定

1-②. 親カウンセリング事業

【事業内容】

- スクリーニングの結果、支援が必要とされた児童の親へのカウンセリングの場として、毎月1回、親カウンセリングを実施
- 親カウンセリングとは、子供を保育士等が対応し、保健師と相談員がその様子を見ながら親と話をし、親から気になる点を聞いたり、保健師が気になる点を親に伝えたりしながら、子供の発達障害に向き合う心理的サポートを行う。

親の児の障害に対する受容をはかるとともに、その後の早期療育へ繋ぐ場

親カウンセリング事業の実施状況

～基本的には市町事業として実施～

- 市町事業で実施
- 市町で代替的な事業を実施
- ★ 県がモデル事業として実施



- 親カウンセリング事業は、早期発見後の早期療育に繋ぐ場として、基本的に市町事業という位置づけで実施
- 現在、県内20市町のうち、6市町(一部の市については、県が補助)が市町事業として取組んでいる
- 当該取り組みが広がるよう、その他の市町については、県が各保健福祉圏域ごとにモデル的に実施(ただし、これらの市町についても、来年度以降は、当該事業又は当該事業に代わる発達障害児を早期療育に繋げる事業の市町事業としての実施を依頼している)

親カウンセリング事業の効果検証

Q. 相談会にきてよかったと思いませんか？(回答率91.8%)

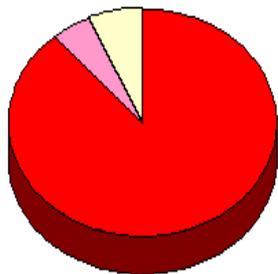


- よかった
- まあまあよかった
- あまりよくなかった
- よくなかった

よかった・まあまあよかった 98.2%

よくなかった・あまりよくなかった 1.8%

Q. お子さんとの接し方についての助言等は参考になりましたか？(回答率100%)



- なった
- まあまあなった
- ふつう
- あまりならなかった
- ならなかった

参考になった・まあまあ参考になった 95.1%

参考にならなかった・あまり参考にならなかった 0.0%

親カウンセリングを受けた保護者の声

- 自分の視野が狭いのだと思いました。他で子供のアドバイスを貰うこともあまりないので、気長にするということを今日改めて思いました。
- 今、不安になっていることが将来どうなるか、自分のしていることが子供にとって良い結果になるか、など聞いたので不安が少し解消した。
- どうしても言葉で伝えようとしてしまうばかりだったけれど、文字にして表してもよいということを教えて頂いたので。長男も次男も文字だと理解しやすくなるような気がしています。ありがとうございました。
- 今まで悩んでいた事が話したことで随分楽になった。あまり神経質に考えないようになった。
- 今まで子供に言葉等を教える時の接し方が分からなかったが、今回の相談でどうすればいいか分かった気がする。

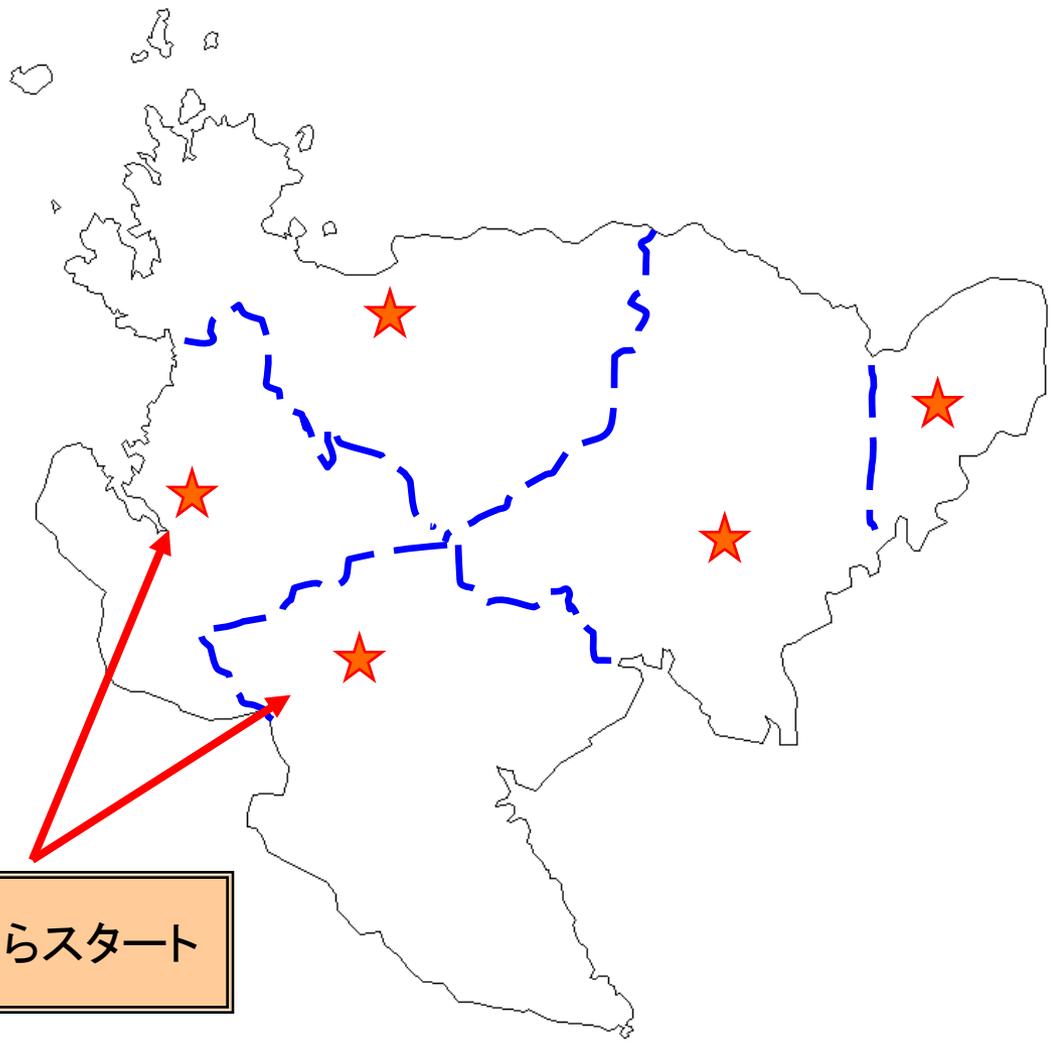
1-③. 療育指導教室(わくわくキッズ)

【事業内容】

- 親カウンセリング後の、発達障害に特化した児童の療育指導の場
- 1人につき、10回の療育指導を実施している。児童に1対1の対応をするとともに、集団行動の機会も設け支援を行う。
- 児童の状況が10回までの間に向上していくことで、児童の「できる」ということへの喜びや親の子育てへの自信に繋がる。

療育指導教室の実施状況

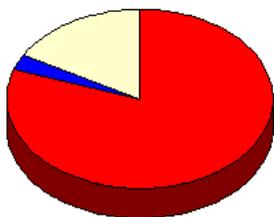
★ 各圏域ごとに実施



H21年度からスタート

療育指導教室の効果検証(1)

Q. 利用してよかったと思いますか？(回答率99. 1%)



■よかった
■よくなかった
□わからない

よかった

80. 4%

よくなかった

2. 8%

Q. 利用する前と後ではお子さんの様子は変わりましたか？(回答率95. 4%)



■よくなった
□変わらなかった
■悪くなった

よくなった

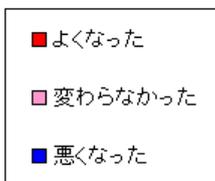
58. 3%

悪くなった

2. 9%

療育指導教室の効果検証(2)

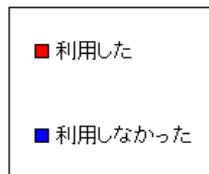
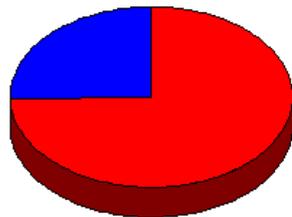
Q. 利用してあなたのお子さんに対する接し方は変わりましたか？(回答率94.4%)



よくなった 66.6%

悪くなった 0.1%

Q. 利用後、他の相談機関を利用されましたか？(回答率99.1%)



利用した 74.8%

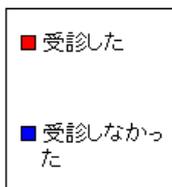
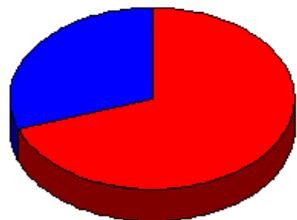
利用しなかった 25.2%

【利用した相談機関の例】 ※複数回答

- ◆発達障害者支援センター 55人
- ◆児童相談所 15人
- ◆子育て相談会 19人

療育指導教室の効果検証(3)

Q. 利用後、発達障害の診断等のため病院の受診をされましたか？(回答率90.7%)



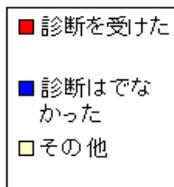
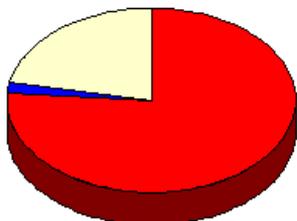
受診した

69.4%

受診しなかった

30.6%

Q. 発達障害の診断を受けましたか？(回答率100%)



発達障害の診断を受けた

76.5%

発達障害でないといわれた

1.5%

療育指導教室(わくわくキッズ)を受けた保護者の声

- 利用する前は、こうすればいいと言ってくれる所がなかったが、わくわくキッズでは、はっきりこうしたら良いというのを教えてもらい、信じてその通り頑張って実行したら状況がかなり良くなった。
- 全てがわくわくキッズから始まりました。発達障害について、何の知識もありませんでしたが、子供の様子を見ながらスタッフの先生が説明をしてくださり、少しずつですがどう対応していけばいいのか、これからどんな事をしていけばいいのか、混乱の中でも方向が見えてきました。
- 子供の特性を理解することがほんの少しですが出来たと思います。また、生活上必要な構造化について心構え(理解)出来たように思います。

2. 児及び保護者の住む地域のバックアップ体制の構築

①母子療育指導専門員育成研修

②ペアレントメンターの育成

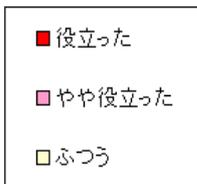
2-①. 母子療育指導専門員育成研修

【事業内容】

- 児が住む地域で、実際に療育にあたる児童デイサービス事業所、保育所等の職員に、発達障害児に関する知識、接し方等を学ぶ研修を行うことで、療育にかかるスキルの向上を図り、地域で療育指導できる人材を育成する。
- 研修は座学(5回)のみでなく、一部の受講者には、療育指導教室(わくわくキッズ)での実技(OJT研修)を実施
- また、職場内での理解普及につながるよう、第1回の研修には、所属長の参加もお願いしている。

母子療育指導専門員育成研修の効果検証(1)

Q. (保育士等に聞きます)研修は役に立ったと思いますか？(回答率87.2%)



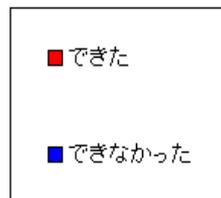
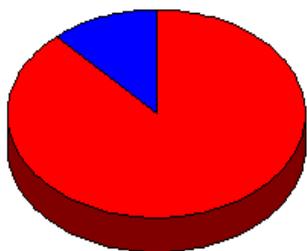
役に立った・やや役に立った

88.2%

役に立たなかった

0.0%

Q. 研修で学んだことは実践することができましたか？(回答率87.2%)



できた

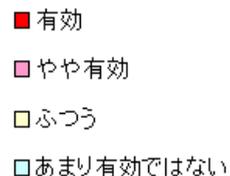
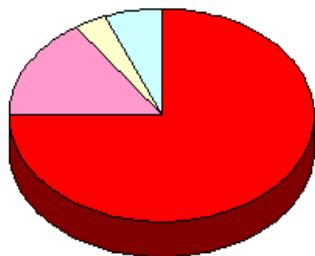
88.2%

できなかった

11.8%

母子療育指導専門員育成研修の効果検証(2)

Q. (所属長に聞きます)研修は有効だと思いますか？(回答率94.1%)



有効・やや有効

90.6%

あまり有効ではない

2.7%

母子療育指導専門員育成研修を受けた受講者の声

- 一年を通して数回に分けて研修が行われた事で、その都度再確認ができ、充実した研修となった。また、実習という実際の場面での支援方法を体得することができ有意義なものとなった。
- 特に実習では子供の特徴が実感できた。また療育の現場を体験したことで、親への助言の際、具体的に情報等を提供できた。
- スケジュール表の作り方など実際に見聞きすることにより支援の方法が確実にできた。
- 研修で聞いたことを参考にしながら母親の訴えを聞くことができた。

2-②.ペアレントメンターの育成

【事業内容】

- LD、ADHD、自閉症スペクトラムなどの発達障害をもつ児童を養育する親に対し、養育経験のある親だからこそできる「親の心理的ストレスの軽減」や、「家庭内での子どもへの適切な対応についての相談」等を提供できるシステムを開発する。

- ペアレントメンターは、スクリーニング⇒親カウンセリング⇒療育指導教室 ⇒ 診断という流れの中で、診断後の親の心のケアなどについて活躍いただく。
- ペアレントメンターがメンターとしての活動を行っていく際には、専門家からなるスーパーバイザー団が、親とメンターとのペアマッチングを行い、その後、メンターが親から受けた相談内容へ専門的見地からの助言やメンター自身の心理的ケア等の専門的支援を行い、メンターのバックアップまで行う。

〔ペアレントメンターの要件〕

- お子さんが発達障害の診断を受けている
- 親の会の活動に2年以上積極的に参加している
- 所属の親の会の会長の推薦がある

➡ 上記、3つの要件を全て満たし、専門講習を終了後、審査を経て登録する

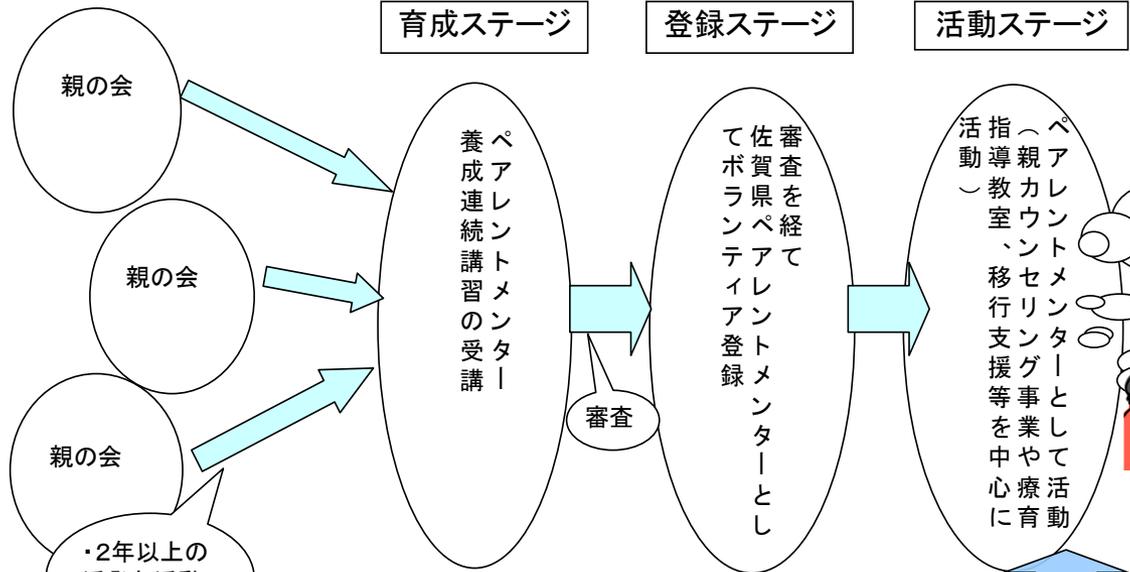
ペアレントメンターの養成専門講習

- 座学
- 傾聴トレーニング
- 療育指導教室でのOJTトレーニング

これまでに24名のペアレントメンターを養成

ペアレントメンター(佐賀モデル)

育成ステージ 登録ステージ 活動ステージ



パターン①(原則6か月)

- 1対1
- 電話相談やメール相談により同じメンターが同じ親を支援
- ①親カウンセリング事業、療育指導教室のフォロー
- ②移行支援 ...etc.
- ★ペアマッチングはスーパーバイザー団が行う



パターン②
親カウンセリング事業や療育指導教室の場で活動



パターン③(レアケース)

家庭訪問
(必ずスーパーバイザーの指導下において行う)



定期研修会や個別相談

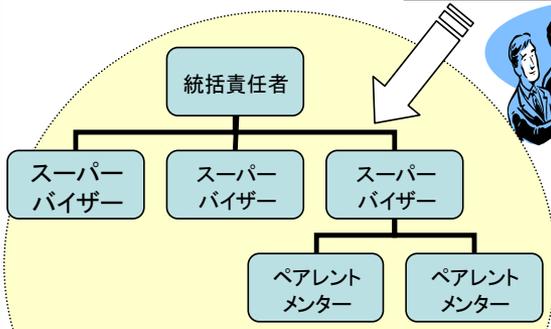
スーパーバイザー団



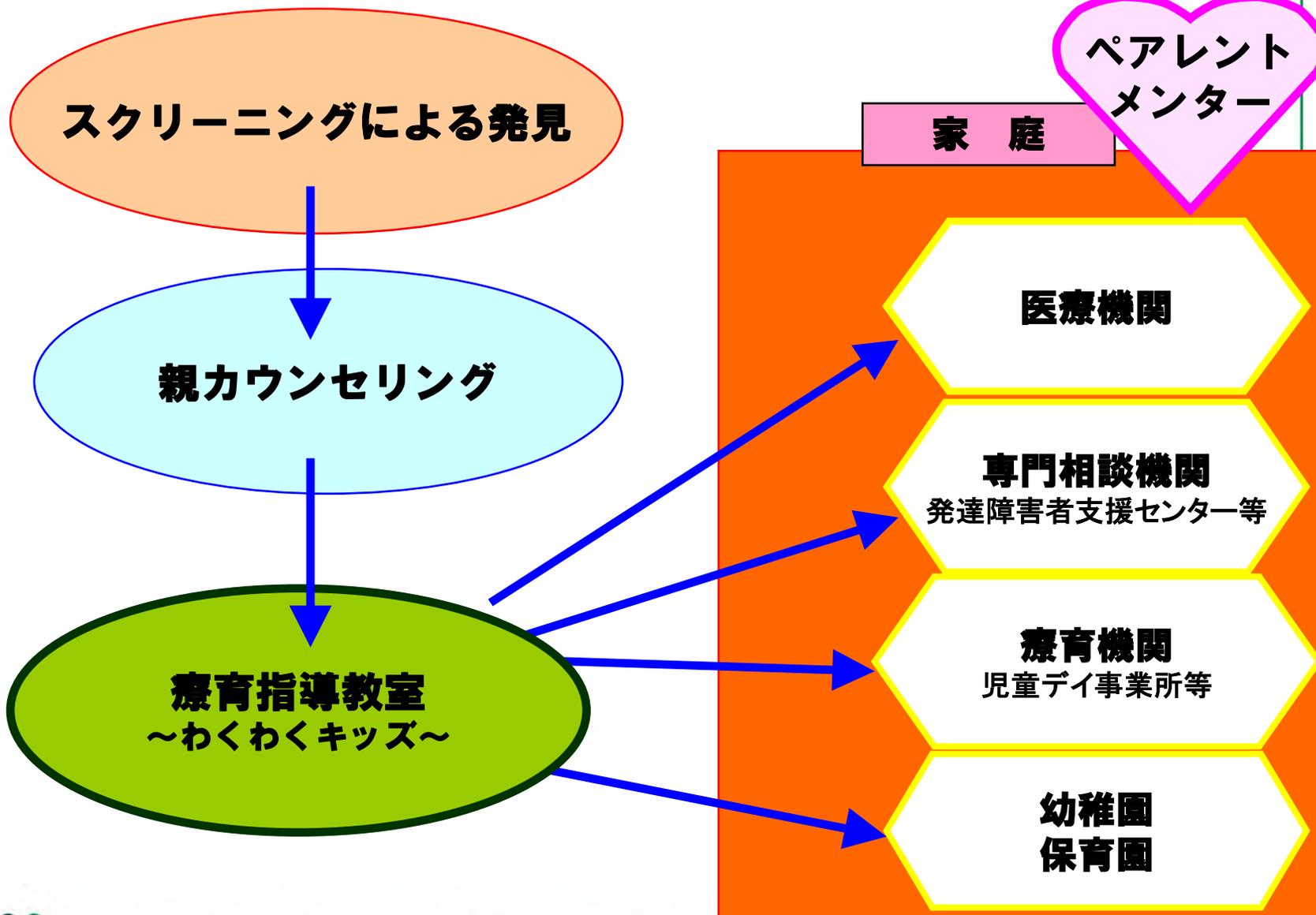
- スーパーバイザー団は、心理や、発達障害者支援の専門家集団
- スーパーバイザー団は・・・
- ・メンターのカウンセリングにあたる。
- ・メンターに助言をする。
- ・ケースに必ず関与する。(メンターの役割と専門家の役割)

メンターシステム組織図

・各メンターには担当スーパーバイザーを配置。統括責任者が全体を総括する



早期発見からの流れ



Fin